

いのち・暮らし・基地

～戦後沖縄と「島ぐるみ」

いま、沖縄では、辺野古への新基地建設を阻止するための運動がねばり強く続けられています。この運動は、保守や革新といった政治的な立場をこえ、沖縄県民が一丸となって取り組まれていることから、「島ぐるみ」の運動と呼ばれることもあります。この運動の底流には、日々繰り返される軍事基地の被害から「いのち（生命）」や「暮らし」を守るという、人びとの「想い」が脈々と流れています。戦後沖縄の歴史をひもときながら、生命や暮らしを守るという「想い」のあり様と、その歴史的・現代的な意義についてみなさんと考えていきます。私たちと、沖縄の歴史や軍事基地の実態など、一緒に学びませんか？



の運動～

2019年11月8日(金)

19時～21時(開場18時45分)

武蔵野公会堂2階

第1・2合同会議室

JR吉祥寺駅南口徒歩3分

資料代：600円(学生300円)

講師：秋山道宏

プロフィール：

1983年沖縄県南風原町生まれ。

明治学院大学国際平和研究所助手を経て、今年9月より沖縄国際大学准教授。専門分野は、社会学、沖縄戦後史、平和研究。

主な著書に『基地社会・沖縄と「島ぐるみ」の運動』（八潮社、2019年）、『沖縄戦を知る事典』（共著、吉川弘文館、2019年）などがある。

問い合わせ

主催：歴史教育者協議会 むさしの支部

TEL：090-4381-4463(担当：黒田貴子)